

あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '90 5月号



昭和51年5月に開館した平塚市博物館も、早いもので満14歳を迎える事ができました。

開館当初は各分野にわたる資料の所在調査と収集、更には市民に博物館を如何に利用して頂くかという事が最重点のテーマでありました。そしてこの事は地域博物館に課せられている永遠のテーマである事は云う迄もありません。

お陰をもちまして、多くの市民の皆さんによるご協力を得て資料等の所在調査や貴重な資料の寄贈、寄託を頂き、総合博物館としての機能と役割りを果し得る体勢を整える事ができました。

そして、入館者もこの14年間に124万8千余人を記録致しました。年間平均で8万9千余人となります。これは全国の各市町立博物館での入館者数としてはトップクラスに位置しております。又、学芸の各分野がそれぞれ実施している体験学習会等、一般市民や親子を対象の教育普及事業は、この紙面や「広報ひらつか」を通して募集実施しておりますが、その都度実際に多くのご参加を頂いております。

展示活動では、市民等から寄贈された新資料を紹介する「寄贈品コーナー」は、毎月テーマを定めて展示しております。常設展示は1階から3階

＊ 生かしたい市民参加による 地域博物館の利点

迄川や海、山や野原で見た石や草木、発掘調査によって出土した土器や鉄剣、生活用具や農機具や漁撈機材等の生産機具。更には東海道五十三次、平塚宿や風習、娯楽、信仰等、平塚の先人達のくらしづくりと歴史的変遷を学ぶ事のできる資料が観覧者に語りかけてくれます。

年間3回実施している特別展のうち、特に夏期特別展は小、中学生の夏休み自由研究のテーマづくりやそのヒントに成り得るよう配慮するなど親しめる展示、解り易い展示を心掛けております。

しかし、「これから時代に求められる地域博物館」として果すべき役割りや機能についてはいくつかの課題もあります。

快適な施設の環境整備、地区公民館との連携による「博物館活動の出前」として実施している「移動博物館」の充実。収蔵資料の学校教育での活用促進等、学校教育との連携強化も大きなテーマであります。そのためにも解決すべき諸条件を整備し、市民のための生涯学習、コミュニティー施設として、これ迄に蓄積された職員の経験と創造的英知を集約し、「生きた博物館運営」を目指して努力して参ります。

博物館長 前場貞三

レポートと資料

5月の寄贈品コーナーでは、博物館に最近収蔵された自然系の資料のいくつかを紹介します。昨年度購入した隕石、13年間活躍していたプラネタリウムの機械部分、神奈川キノコの会の手で調査が始まった、高麗山のキノコ標本などが主な展示資料です。

また、博物館のスタッフによって昨年度にまとめられた出版物やレポートの基礎データになった資料の一部もご紹介します。博物館の資料はただ保存されているだけではなく、調査や研究の材料になり、また出版物などで発表される情報の裏づけともなっているのです。

●ハクビシンの落し物

昨年の春に藤沢市大庭の神明社の社殿で奇妙なものが見つかりました。氏子の方が屋根裏に登ったところ、一面に獣の糞が積み重なっていたのです。知らせを受けて調べに行ってみたら、付近の木の幹についた爪跡などから、ハクビシンという獣がねぐらに利用していたに違いないという結論になりました。ハクビシンは東南アジア方面から日本に持ち込まれたのではないかと推定されている帰化動物で、神奈川県では最近西部を中心に分布を広げています。

この糞は一部を持ち帰り、ボランティアの大学生の協力を得て、きれいに洗って内容物を取り出してみました。中からは、植物の種子、虫の体の一部などいろいろな物が見つかり、ハクビシンの食生活の一端を知ることができました。

その結果は、県立博物館で発行している「神奈川自然誌資料」という刊行物にレポートとして発表しました。今回展示したのは、糞の中から発見された動植物の破片で、こうしたものも動物の生活についての貴重な情報源になることを知って頂きたいと思います。

●相模川のガ

博物館では相模川関係の資料の収集に努めていますが、1975年から1977年にかけて、寒川町一の宮の川原で灯火による昆虫の採集をしたことがあります。そのうち、ガ類について、ようやく整理がついたので、博物館の研究報告に「相

模川河川敷で採集されたガ類について」というレポートをまとめました。展示したのは、そのもとになったガ類の標本です。

まとめるのに採集してから10年以上の時間が経ってしまった、大きな原因はガ類には分類が難しい種類が多く、専門家による同定を受けなければ正確な種名が判断できないためです。幸い、神奈川昆虫談話会の神部昭夫さんの協力を頂くことができ、整理にまでこぎつけました。神部さんは数回博物館まで足を運んで頂き、詳しい検討をお願いすることができました。

●湘南の植物のニューフェース

博物館では「湘南植物誌1~3」を発行し、湘南地域の植物について詳しい資料を作っていました。しかし、完全な調査というのは難しいものでその後も何種類かこの地域で新たに記録された種類ができました。そこでこれまでの記録を總て集成した「湘南植物誌4」を刊行しました。

ここには、1988年から89年にかけて、新たに記録された約30種類の記録がつけ加えられていますが、ここにはそのうち代表的な10種類ほどを展示了しました。

各地で植物誌に類する本はたくさん発行されていますが、記事にある植物を確認しようと思っても、標本が残されていないことがあります。博物館では、その点証拠になる標本が確実に残され、疑問があれば後日再検討をすることができるに大きな特色があります。 (浜口)

プラネタリウム投影の話題

ほうき星がやってきた



オースチン彗星発見される

明るい大きな彗星になると期待されているオースチン彗星がいよいよ地球にちかづいてきました。昨年の12月にニュージーランドのアマチュア天文家、ロドネイ・オースチン氏によって、きょしちょう座の中に発見された時はとても淡く小さな天体でしたが、その軌道を計算して行くうちにハレー彗星以上の大彗星になる可能性が出てきました。その明るさは2等星とほぼ同じ、尾は一番伸びて30度にもなる、というのです。が、はたしてどうなったでしょうか。

初めて訪れたほうき星

4月10日に太陽に525.0万Kmまでちかづきましたが、これは先のハレー彗星よりも350.0万Kmも太陽にちかい距離です。この彗星は、今回始めて太陽にちかづく彗星で、たくさんのチリやガスの成分を持ってきているだろうと考えら

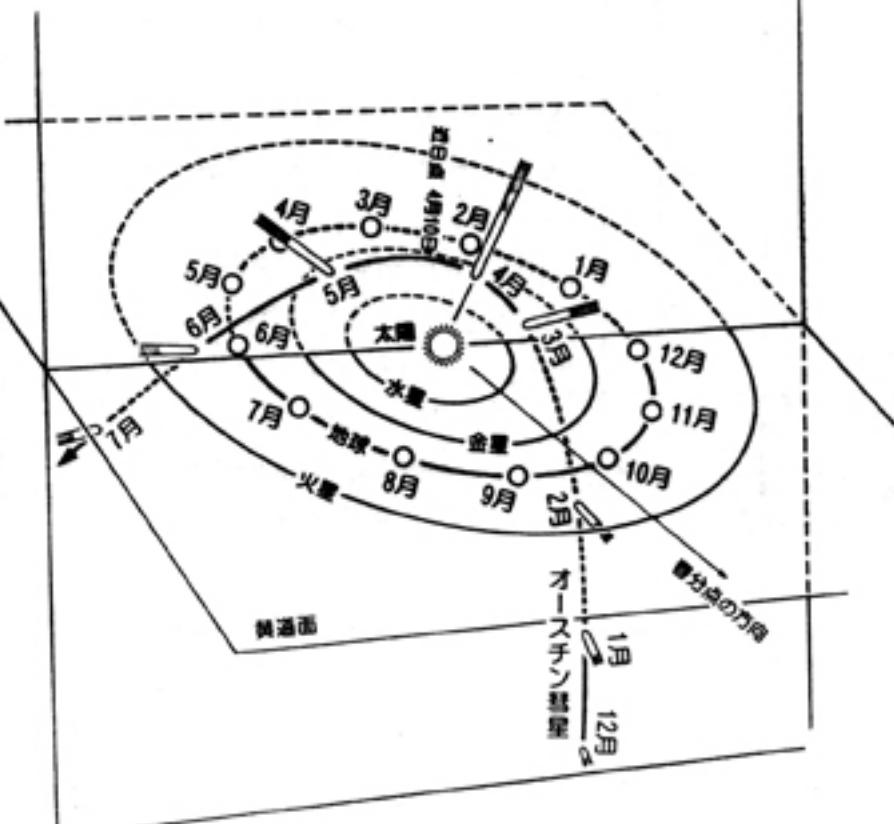
投影期間 5月12日～7月15日

れています。太陽にちかづくとその熱や光でさかんに蒸発し、ガスは太陽風に吹き飛ばされ、チリは光の圧力で彗星の頭部から少しづつ離れ、そして長くあかるい尾に伸びて、いわゆるほうき星になります。

どんな姿になる？

ほうきの形をしたその姿は四月下旬から6月にかけて平塚の街で双眼鏡で見えるといどの明るさになりそうですが、実際に見るにはいつ、どの方角を見れば良いか、その姿はいつごろまで見られるか、どんな変化をしていくのか、今回のプラネタリウムではオースチン彗星を話題に、彗星のもつみりょくをお話しします。そしてぜひ本物のほうき星をたくさんの人々に眺めてもらいたいと願っています。（鷹）

オースチン彗星の軌道面（天文ガイド5月号より）



行事案内

5月

1 2	土	古文書講読会／石仏を調べる会／ナチュラリスト講座／土曜観察会（新聞作り）
1 7	木	みんなで調べよう“身近な生き物調査”
1 9	土	平塚の空襲と戦災を記録する会／漂着物を拾う会
2 6	土	古文書講読会／石仏を調べる会／土曜観察会
2 7	日	相模川を歩く会（笛子川）

- ・寄贈品コーナー：新資料収蔵展－自然部門－
(5月1日～27日)
- ・プラネタリウム：ほしき星がやって来た
(5月8日～7月15日)

6月

9	土	漂着物を拾う会・古文書講読会・石仏を調べる会・土曜観察会・ナチュラリスト講座
1 0	日	体験学習一裏打ち一
1 6	土	漂着物を拾う会・平塚の空襲と戦災を記録する会
1 7	日	相模川を歩く会・天体観察会－太陽－
2 3	土	古文書講読会・石仏を調べる会・土曜観察会（新聞作り）

- ・寄贈品コーナー：平塚の空襲と戦災
(6月8日～7月29日)

●体験学習一裏打ち一

簡単な裏打ち技術を学ぼう。

日時：6月10日(日)午前10時～午後3時

場所：科学教室

申込み：6月2日まで往復ハガキで。

定員15名。多数の場合は抽選します。

●全館くん蒸による休館のお知らせ

博物館資料をカビや虫から守るくん蒸作業のため、次の期間を休館とさせていただきます。この間館内へは立ち入りできませんのでご了承下さい。

期間 5月29日(火)～6月7日(木)

●人事異動のお知らせ

平成2年度の発足にあたり、人事異動がありましたのでお知らせします。

・異動(兼務解除)

教委指導部美術館・博物館担当参事 今泉義廣
(教委指導部美術館担当参事兼博物館長)

・同(兼務)

平塚市博物館館長兼市史編さん係長 前場貞三
(博物館総括担当主幹)

・同(兼務解任)

平塚市博物館館長代理(管理・学芸担当)
南里宏(博物館館長代理兼市史編さん係長)

・同

社会教育課主査 明石新(博物館主査兼学芸員)

・同

博物館主査 森慎一(美術館建設準備室主査)

博物館主査 鈴木豊(八幡小学校教諭)